



加藤誠先生・しのぶ先生と「ル・レーブ」のメンバー
「ル・レーブ」とは、フランス語で「the dream=夢」の意味。もともとは百合の名前から佐藤さんが思いついて、サークル名として採用された。

「いつか夢は叶う」を合言葉に サークル活動を楽しみます



誘ってくださった 岩崎さんと

おだやかな表情の岩崎さんには何でも話せます。岩崎さんは、合奏では主旋律にあたるファーストパートを担当。78歳とは思えない弓さばき！

譜面も最初は全く 読めませんでした

10年前にピアノに挑戦したものの挫折。譜面が読みこなせるようになるまで、2年ほどかかりました。今でもソロで弾くのは緊張します。



弓を何本もかえて 音をかえます

ブサルタリーは、弓の材質や、大きさで微妙な音の違いが出せるのも魅力のひとつ。通常、左右に1本ずつ弓を持って弾きます。指先が器用に。

やされています」
佐藤さんがブサルタリーと出合ったのは7年前。認知症だった実母の看取りが、自分の満足いくようにならなかった。幼い頃から、「共依存」ともいべき母との濃密な関係。母の突然の死は、佐藤さんの心に想像

以上の喪失感をもたらした。「母は私に対する期待がものすごく大きくて。就職や結婚相手を決めるときも、ずいぶんと意見や反対もされ、いつの間にか、私の人生が母の理想のレールから少しでも外れると癪癪を起こしたり、認知症のせいなのか、暴言を吐くようになりました。夫との絆を築き上げるのに時間がなかったのは、母の影響も大きかったと思います。母が亡くなったとき、親の介護が終わった」という安堵感よりも、とっかげ本体がいなくなつて、しつぽのような自分だけが取り残されてしまった」という気持ち

コンサートのチラシも手作り

メンバーでチラシや会報を作成。レッスン後のお茶タイムも楽しみです。10月30日藤代音楽祭、11月13日オータムコンサートに出演(入場無料)。☎03-3493-2157加藤さんまで。



どんなに言葉を尽くしても
足りない、伝わらない……。
でも音楽には言葉がなくても
伝わるものがあります

